

## 議 事 録

会議名	川西市総合教育会議(第2回)		
事務局(担当課)	経営改革課		
開催日時	平成30年2月15日(木) 16時00分から17時00分		
開催場所	川西市役所 4階 庁議室		
出席者	委員	川西市 大塩市長  川西市教育委員会 牛尾教育長、加藤委員、磯部委員、服部委員、鈴木委員	
	関係職員	松木総合政策部長、中塚こども未来部長、木下教育推進部長	
	事務局	総合政策部行政経営室経営改革課 作田室長、的場課長、有村	
傍聴の可否	可	傍聴者数	1人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	1 開会 2 議事 (1)平成29年度教育施策の成果について (2)地域人材と連携した教育施策の推進について 3 その他		
会議結果			

## 会議経過

発言者	発言内容等
事務局	<p>それではただ今より、平成 29 年度第 2 回川西市総合教育会議を開催させていただきます。会議開催に当たりまして、総合教育会議の主宰者であります大塩市長からごあいさつをさせていただきます。</p>
大塩市長	<p>本日は、平成 29 年度第 2 回目の川西市総合教育会議にご出席をいただきありがとうございます。</p> <p>今回は議題にもありますように「平成 29 年度教育施策の成果」及び「地域人材と連携した教育施策の推進」について、委員の皆さんと意見交換をできればと思っています。教育施策について、このような短い時間で全てを議論し尽くすことは難しいとは思いますが、意見を交換することは大事な事なので、よろしくお願いします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。これよりの会議の進行につきましては、大塩市長にお願いしたいと思います。市長、よろしくお願いいたします。</p>
大塩市長	<p>それでは、この後は私の方で次第に則り、議事進行をさせていただきます。</p> <p>まず、「平成 29 年度教育施策の成果について」を議題とします。教育長から説明をお願いします。</p>
牛尾教育長	<p>それでは、平成 29 年度の取り組みと平成 30 年度につながる内容についてスライドを使って説明させていただきます。</p> <p>(スクリーンの映像に沿って説明)</p> <p>「社会に開かれた教育課程の実現」という大きなテーマがあり、そこから「地域人材と連携した教育施策の推進」につながります。これらについて協議を進めていければと思います。</p> <p>川西の教育全般について説明します。本市においても平成 18 年に教育基本法の改定があり、目的や目標を持ったところであり、それに則り進めています。</p> <p>特に第 3 条には生涯学習の理念が謳われており、これをもって約 10 年、取り組んでいます。その中で学校教育、就学前教育、社会教育の取り組みを進めています。</p> <p>教育基本法でもそのような視点があります。家庭教育の第 10 条、幼児期・学校教育の 11 条、6 条、9 条、社会教育の 12 条、教育行政の 16 条です。そして、13 条が地域社会全体で取り組んでいこうという条項で、これも本日の協議につながる場所があります。</p> <p>第 5 次総合計画に則り進めています。特に第 3 章「生きがい」の政策 6「育つ」、政策 7「学ぶ」について取り組みを進めています。</p> <p>それを受けまして、前期基本計画から取り組んでいる、「地域と人の輪でつくる 育ち学び合う教育の推進」を後期基本計画でも進めていきたいと思っています。</p> <p>川西の教育の体系づくりですが、就学前教育、保育時代から小学校、中学校、義務教育を終える 15 歳の春に向けてどのように作っていくかを考えています。</p> <p>その中で特に、就学前の時期と就学後の時期の接続、小学校と中学校の接続。これら義務教育 9 年間に就学前も含めて、接続の時期を大切にしながら、これからも</p>

発言者	発言内容等
	<p>進めていきたいと思えます。</p> <p>特に、来年度に向けて本市も就学前のアプローチ期、小学校時代へのつなぎとなるスタート期について、カリキュラムを作成し進めていきたいと考えています。</p> <p>次期学習指導要領について、幼稚園は平成 30 年度、小学校は平成 32 年度、中学校は平成 33 年度、高校は平成 34 年度から完全実施でスタートします。その中で、「社会に開かれた教育課程の実現」に向けて進めていくこととなります。</p> <p>「社会に開かれた教育課程の実現」は、より良い学校教育を通じて、より良い社会を創るという目標を地域社会全体で共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育むことが大きな狙いです。そのためには「何ができるようになるか」という資質、「何を学ぶか」という教育内容、「どのように学ぶか」という学習過程の改善、これは教職員にとっては授業をどのように作っていくかにもつながることです。これらを大事に進めていきたいと思えます。</p> <p>キャリア形成の支援についてですが、子どもたち一人ひとりが生涯を見据えて、学ぶ意義や目的を見出し、充実した人生を送ることができるよう基盤、つまりキャリアの形成を本市でも進めていかなければなりません。多様な体験活動を重視する面では、地域社会全体の人材や資源を活用した取り組みが求められると思えます。</p> <p>中学校区は子どもたちにとってはふるさとです。中学校区で目指すこども像や具体的な施策を設けて取り組んでいくということで、7 中学校区で取り組みを進めているところです。</p> <p>運営面ですが、校長先生など管理職の協働、教科等の協働、教科等以外にもたくさんの協働があります。PTA 活動、学校支援地域本部事業、放課後子どもプラン等、地域との関連も含めた取り組みが必要になると思えます。</p> <p>すでに取り組んでいるものとしては、中学校区での学びの協働のなかでは、中学校区教育長懇談会があります。これは前教育長の時代から進めています。また、全中学校区の全教職員が一堂に会す、中学校区教育合同研究会も行っています。このような取り組みをさらに充実させていく必要があると思えます。</p> <p>学びの協働ですが、地域との関わりの中で、学校支援地域本部事業についてはすでに動いています。放課後子ども教室と留守家庭児童育成クラブを融合した、放課後総合プランもスタートしています。こういった取り組みが学校教育、社会教育とつながり川西市学校・家庭・地域連携推進事業に結びついています。これらは将来的にコミュニティスクールなどにつながっていく可能性があると思えます。</p> <p>社会教育の面で、今年度はレフネックで 2 つの講座を持ち、りんどう学園では 6 学科と一般教養講座をもって進めています。これらと公民館活動を川西市の社会教育の柱として目標をもって進めています。</p> <p>文化財のほかに天然記念物についても、どのように活かして川西の教育につなげていくのかを検討しています。</p> <p>就学前教育・保育、学校教育、社会教育について詳しく説明します。</p> <p>まず、就学前教育です。幼保一体化を年次的に進めています。尚且つ、これは小学校との連携のモデルにもなるので、そこを大事に進めていきたいと思えます。</p> <p>就学前の段階で子どもに力をつけるため、きんたくんタイムとして、集中力の向上や語彙を増やす、自分なりに考えて発言する力を養うための取り組みを全幼稚園で行っています。</p> <p>川西市は保育所、幼稚園、こども園が 54 施設あります。公立間の連携だけでなく、公立と私立の間でも交流活動を通して、横の関係を築いています。</p>

発言者	発言内容等
大塩市長	<p>学校教育の中軸は授業を創ることです。指導と評価をしっかりと設けて、授業をしっかり創っていききたいと思います。</p> <p>学力向上の側面的な指導支援として、小学校ではきんたくん学びの道場、中学校では夏の寺子屋などの取り組みの充実を図っています。</p> <p>新しい学習指導要領が来年度から 3・4 年生が 15 時間、5・6 年生が 50 時間の設定で入ってきますので、進行的に完全実施に向けて進めていきます。</p> <p>語彙力の向上、言語活動の充実を目指し、図書館との連携を大切にしていきたいと思っています。</p> <p>特別支援教育は大きな課題ですが、特別支援教育に視点を置いた学級運営、ユニバーサルデザインに視点を置いた環境整備等が求められると思います。</p> <p>心の教育の一環として、里山体験学習を平成 20 年度からスタートしています。就学前から中学二年のトライやる・ウィークにつながるまで、心の教育として、いじめや不登校への対応も含めて、大事な取り組みとして進めていききたいと思います。</p> <p>乳幼児との体験交流事業では、赤ちゃん先生プロジェクトを進めています。</p> <p>キャリア教育では進路指導中心に進めていますが、キャリア教育を充実させるため、5 歳児から夢を語る取り組み、2分の 1 成人式、中学 3 年生の卒業時の進路を語る会、成人式のはたちの抱負など、節目を設けたキャリア教育の実践を進めています。</p> <p>先輩に学ぼう事業は平成 23 年度からスタートし、各小中学校で毎年 5～6 人の著名な卒業生を呼ぶことで事業を進めています。</p> <p>生徒指導では、川西市いじめ防止基本方針をふまえて、生徒指導指針も設けて、アンテナ高く、理解を深めながら取り組みを進めていきます。</p> <p>中学校区の安全安心は PTA や地域に協力いただくとともに、防災カメラの設置など充実にも努めています。</p> <p>就学前の学びの協働では、小学生と中学生の交流や小学生と幼稚園児の交流など縦・横の関係を深めていくとともに、中学校と高校の教員の交流として授業研究も進めているところです。川西中学校では、川西小学校、桜が丘小学校、川西北小学校、長尾台小学校の 6 年生全員が集まり、学校をバラバラにし、授業を受けてもらうなどの取り組みをしています。</p> <p>中学校給食ではアレルギー対応について進めています。</p> <p>食育では、自ら食を選ぶ力をつけるため、各小中学校で取り組みを進めています。</p> <p>情報化への対応として、中学校ではプログラミング教育を技術家庭科の時間ですすでに取り組んでいますが、今後は小学校でも大切になるとと思いますので、対応を来年度以降、さらに進めていきます。また、市長部局に協力いただき、校務支援ソフトを導入しました。これは勤務時間の適正化においても、先生と生徒の交流の時間が増える面においても効果を発揮しています。</p> <p>教育施設については、年次的に施設の改善を進めていく必要があります。</p> <p>以上、「社会に開かれた教育課程」の実現について、各委員の方から話を出していただく中で、市長と協議をできればと思います。</p> <p>議事の 1 つ目にありますように、「平成 29 年度の教育施策の成果について」を教育長からお話しいただきました。市長部局との協力が必要なこともたくさんあると思います。</p>

発言者	発言内容等
加藤委員	<p>続いて「地域人材と連携した教育施策の推進」について議題にしたいと思いません。</p> <p>まず、今回の大まかな概略、総論を話させていただきます。</p> <p>教育長のスライドにもありますように、「社会に開かれた教育課程」が今回の学習指導要領の改訂の重要なキーワードです。学習指導要領は昭和33年に作成され、これまで約10年おきに改訂されてきました。今回の改訂のポイントは、教職員が現場で生徒を指導するといった内容の過去の改訂と違い、「社会に開かれた教育課程」ということを明確に押し出したことです。社会が教育現場に入ってくる、社会が学校を育てるというイメージを文科省が明らかにしました。まだまだ時間がかかることではありますが、社会が協議をし、教科書や人事を決めることができる内容を打ち出してきましたので、それらに対応できる教育現場の展開を考えなければなりません。</p> <p>「地域人材と連携した教育施策の推進」がなければ、「社会に開かれた教育課程の実現」は不可能です。教育委員会のできることは、学校教育と社会教育の取り組みですが、これらを教育委員会だけでまとめることはできません。市全体として、人材や市民団体の活動を共有し、それに基づいて活動を展開する仕組みづくりが第一だと思います。そのために行政と教育委員会が共にプランニングしながら進めていかなければならないと思います。</p> <p>コミュニティスクールの設置については、理解はしているが動き出してはいない現状です。しかし、日本全体で見ますと、文科省が法令を緩和してまで推進しているので、都道府県単位で20%を超えています。学校単位でみると10%を超えています。いずれ、このような波が来ることを想定して、この場で提案させていただきます。</p>
磯部委員	<p>続きまして、「連携」をキーワードに教育委員会と市長部局の人・物・こと・情報がつながることによって、さらには地域の人たちの知恵が加わることで、社会に開かれた新たな教育課程の施策を展開できないかという、私が常日頃から考えていることをお話をさせていただきます。</p> <p>一例ですが、公民館を人とのつながりや学び合いで、心も体も健康になれる場所にするということです。例えば、毎月第1・3水曜日を健幸の日とし、地域に住んでいるレフネックのスポーツ健康学科を卒業された人や、健幸マイレージに参加されている人を中心に、公民館で健幸体操や体に優しく、体力を維持・向上できる運動をし、参加者には健幸マイレージを付与します。体操の後は座談会を開催し、地域のテーマについて話をしたり、趣味について雑談する場とします。また、参加者が話を聞いてみたいと思う人にお越しいただいても良いし、地域ができる子育てについて話をすることも良いと思います。夏休みは子どもたちに参加してもらい、世代を超えた交流の場とします。また、公民館で活動している子育てサークルの方々と、地域で子育てをしているお父さんお母さんの交流の場とし、子育てや家事の知恵袋のような話をしてもらい、人とのつながりや地域の絆を育むことができる場所とし、心身ともに健康になり、人とのつながりを感じることでできる機会を定期的に提供できる場所作りをできればと思います。</p> <p>このような公民館の活動は「であい ふれあい ささえあい 輝きつなぐまち」を創るための一助にもなると思います。</p> <p>高齢化していく地域社会においては、健康で元気な人たちが多くなることで地域は活性化しますし、その力は様々な視点で学校教育や社会教育を支える力になります。</p>

発言者	発言内容等
服部委員	<p>す。また、若い親世代が幅広い世代とつながりを持つことで、子育てがしやすくなります。さらに、自分たちの若い力を地域に還元しようと思う機会も増えるのではないかと思います。この例は市長部局の健康福祉部や市民生活部とタッグを組めば実現可能な教育施策ではないかと思います。この例に限らず、「社会に開かれた教育課程」の実現には、社会教育主事のような、様々な立場の人々をコーディネートする役割を担う人が必要になるのではないかと思います。</p> <p>続きまして、私からは天然記念物等についてお話をさせていただきます。</p> <p>川西市が行っている施策の中には非常に進んでいるものが多くありますが、まだまだ市民に認識されていません。例えば、天然記念物では、この6年の間に6件指定できたというのは日本で1番です。レフネックでは、他の地域の生涯学習の講座にも行きますが、これだけ多くの人が集まって勉強しているのは、他ではほとんど見たことはありません。体験学習では小学校3年生、4年生、5年生、中学校2年生と体系が整っているのは川西市だけです。このような優れた構造があるなかで、学校教育や社会教育にどのように連携させていくのが重要です。</p> <p>体験学習と天然記念物は無関係のように思いますが、体験学習を指導していただくためには、市民の活動がなければなりません。その市民の活動の場が天然記念物という付加価値を持っていると、非常に活発になります。水明台のグループは全国でもトップクラスの活動をしていただいています。そこから清和台など他のグループに広がっていく構造があり、非常に良い状況です。ただ、それらを市民に任せおくのではなく、レフネックやりんどう学園などで、学校教育に活かすことができる講座にすることができないか、地域に密着した生涯学習のあり方があるのではないかと考えています。優秀な人材がいらっしゃるので、そういった内容にできるように教育委員会として頑張っていかなければならないと思います。</p> <p>天然記念物に関しては市長部局との関連が強いです。この間は環境創造課にシンポジウムをやっていただき、このような団体が20団体もあることを知り、すごい力だと感じました。また、公園緑地課にはJR川西池田の駅に台場クヌギを作っていただきました。</p> <p>天然記念物自体は観光としての力があるが、観光施策の中では、まだ観光資源として十分に位置づけられていないので、かわにし魅力推進室と連携できないかと考えています。</p> <p>絵本作家の永田萌さんが台場クヌギの絵本を書かれるということで、天然記念物である台場クヌギを紹介しました。それをモデルに絵本を作られた関係で、今度、講演会をできないかという話を永田さんのほうからいただきました。そういったこととも連携ができるのではないかと考えています。</p>
鈴木委員	<p>続きまして、学校教育と社会教育が重なる部分の実際の取り組みについて、お話をさせていただきます。</p> <p>この度、社会教育法が改正され、教育委員会により各学校に地域学校協働本部を設置することとなりました。川西市ではその基盤は既にあると思います。各小中学校区に地域と学校をつなぐ、コーディネーター的な役割を果たしている人がいます。地域住民には、ボランティアマインドの豊かな人が多くいます。学校の要請と地域の準備が呼応したときには、良い取り組みが実現しています。自然体験学習の地域グループの活動や学校図書館を地域のボランティアが支えていることなど、これらの成</p>

発言者	発言内容等
大塩市長	<p>功例からは学校と地域の協働の手応えを実感することができます。</p> <p>学校支援地域本部の実行委員会では、頻りに現場に出向き、各地域で活動されている人の話を聞き、社会教育と学校教育をつなぐ努力をしています。</p> <p>学校からの発信が地域に届きにくいことや、ボランティアを育てる手立てなど、多くの問題を抱えていることは事実ですが、各地域のコーディネーターと共に、それぞれの実情に沿って事業を進めていこうとしています。</p> <p>地域学校協働本部を置くことが、地域と学校の重荷になっては本末転倒ですので、このところを十分に配慮して進めていきたいと思っています。</p> <p>各教育委員さんから意見を聞かせていただきましたが、私もこれからは社会全体で学校教育を進めていく考えに異論はありません。しかし、現実をみると学校教育と社会教育には大きな体系があり、学校授業数が足りていない中で、実際に子どもたちにこのような教育をしていく時間については、どの様に展開していこうと考えているのかと思います。今、お話いただいた部分をどこのカリキュラムに組み込み、どのように進めていくのかを整理しないと、話が前に進まないのではないかと思います。体系づくりから考えて、取り組んでほしいと思いますが、社会全体で学校を支えていくシステムについての運用などはあるのですか。</p>
加藤委員	<p>運用としては、文科省はコミュニティスクールを目指していて、コミュニティの人が主体的に教育カリキュラムの場で関わっていくということが明確にされています。ただ、そこまで目指すのであれば基盤整備が必要です。どのように人材を活かし、今の教育から移行していくのか。準備として、どのような人材が川西市にあり、どのように活用するかを考える段階だと思います。</p>
大塩市長	<p>何事も一足飛びにはいきませんので、お互いに研究を進めていければと思います。</p> <p>里山体験や先輩に学ぼうなどは川西らしさだと思います。提案いただいたことも実現できていけば良いことだと思いますが、現実問題として時間の制約があると思います。そこをどう整理していきますか。</p>
服部委員	<p>既にあるカリキュラムを遂行するために地域の人材が必要ですが、すべての学校にそのようなグループがついているわけではないので、人材育成が必要であると思います。</p>
牛尾教育長	<p>時間には制約がありますが、現状としては、教科用図書を使って行う授業に代わるものとして体験学習を取り入れ、地域の人を先生として迎える形で進めています。</p> <p>学習指導要領に則って行っている授業を外して、他の体験授業をいれることはできないので、うまく人材を活用して、どのように拡充していくかが課題だと思います。</p>
大塩市長	<p>いきなりすべてを取り入れることはできないと思います。ただ、乳幼児との体験交流授業や先輩と語ろうなど、無かったものを取り入れることができていますので、提案いただいたものを実現できるように、教育委員会は進めてほしいと思います。</p> <p>市長部局としては教育委員会の提案に対し、柔軟に対応できる組織になっています。総合教育会議の開催だけでなく、今後もしっかり交流し、どのように話をまとめて</p>

発言者	発言内容等
磯部委員	<p>いくのか、しっかり協議していきたいと思います。</p> <p>明日の議会の本会議で当初予算の話がありますが、川西市としてプロジェクトの1つである「こども未来プロジェクト」について、しっかり対応していきたいと考えています。</p> <p>他に意見はありますか。</p> <p>先ほど、市長からどのように時間を捻出していくのかとありました。</p> <p>先日、食育に関する研究発表会に行ってきましたが、その授業には担任の先生に加えて栄養教諭がはいっており、専門的な栄養の話は栄養教諭がしていました。授業に専門性があると内容が豊かになると改めて感じました。今の授業数は変えることはできませんが、例えば社会の時間に地域のことを学ぶ時間があればコミュニティの会長に来ていただき実体験の話をしていただいたり、理科や美術の時間などに活花を取り入れるなど、授業を豊かにするための連携はしていけるのではないかと考えています。</p> <p>今後はどのように進めていくのか研究が必要だと思います。特に子どもたちは、これから生きる力を養う必要があるので、学校の先生の学問を教える力と地域の豊かな人間力をミックスした学びが必要であり、勉強することが社会に出たときにどのように活かされるのか、勉強することの必然性がわかるような授業ができる工夫を考えていくことができればと思います。</p>
大塩市長	<p>英語教育で地域の方に有償ボランティアとして入っていただくなど、合致するカリキュラムから入っていただくことも1つの手法だと思います。学校教育として可能性はあると思います。</p> <p>他はよろしいでしょうか。これらは実際に必要なことだと思いますので、これからお互いに進めていくことができればと思いますので、よろしくお願いします。</p> <p>本日はありがとうございました。</p>

以下会議の事項を記録し、相違ないことを認めたので、ここに署名いたします。

平成 30 年 3 月 日

川 西 市 長

川西市教育長